河川レンジャー

第3回　河川レンジャー運営会議（R8.3）
参考資料－3

令和7年度河川レンジャーの取り組みについて

目　次

1. 令和7年度淀川管内河川レンジャー　……　1

2. 河川レンジャー活動状況　……　3

3. 河川レンジャー役割理解の取り組み　……10

4. 河川レンジャー活動成果の発信　……16

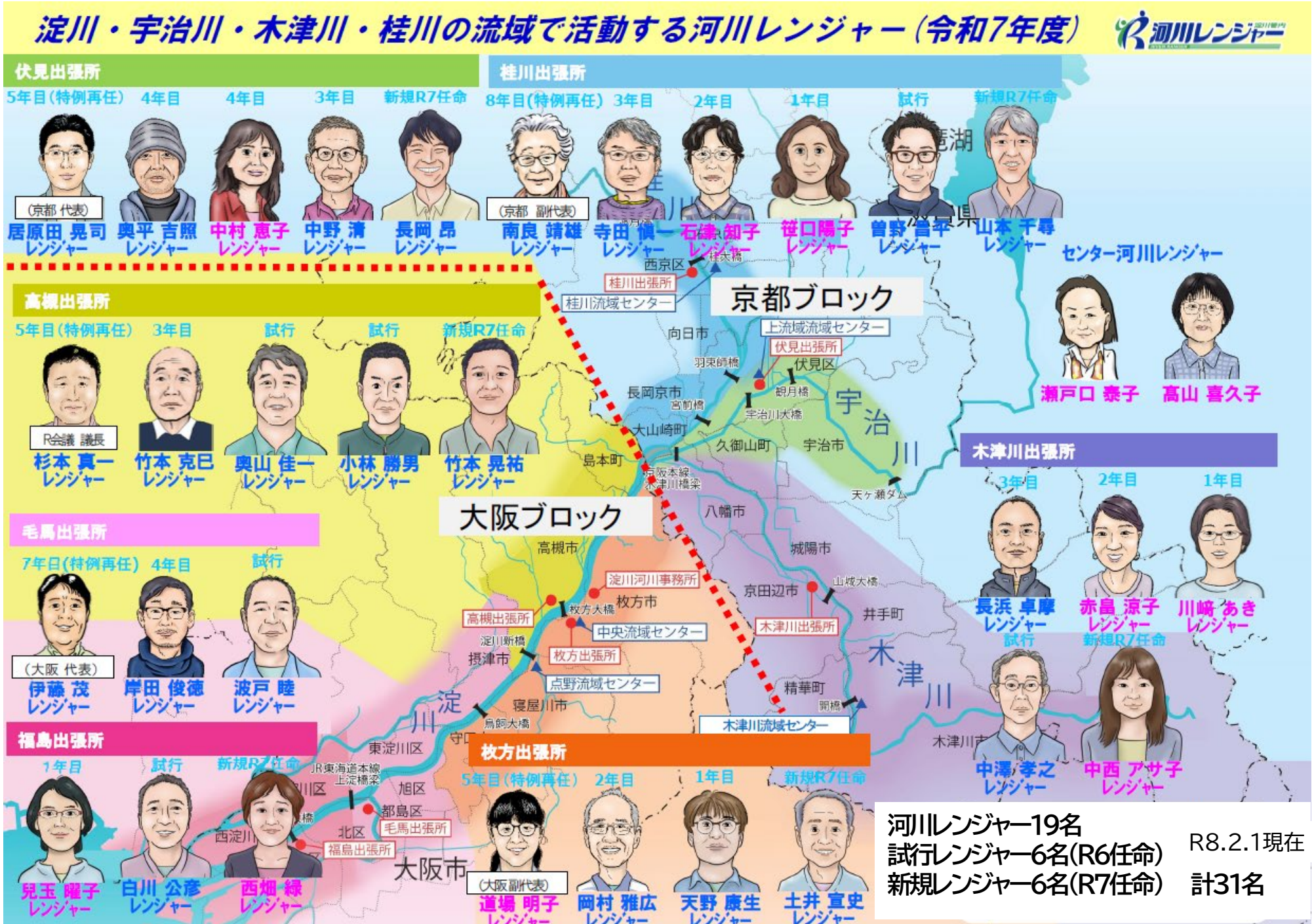
5. 淀川水系一斉美化アクション　……18

6. 地域連携グループ連絡会　……20

7. 第3回河川レンジャー交流会　……21

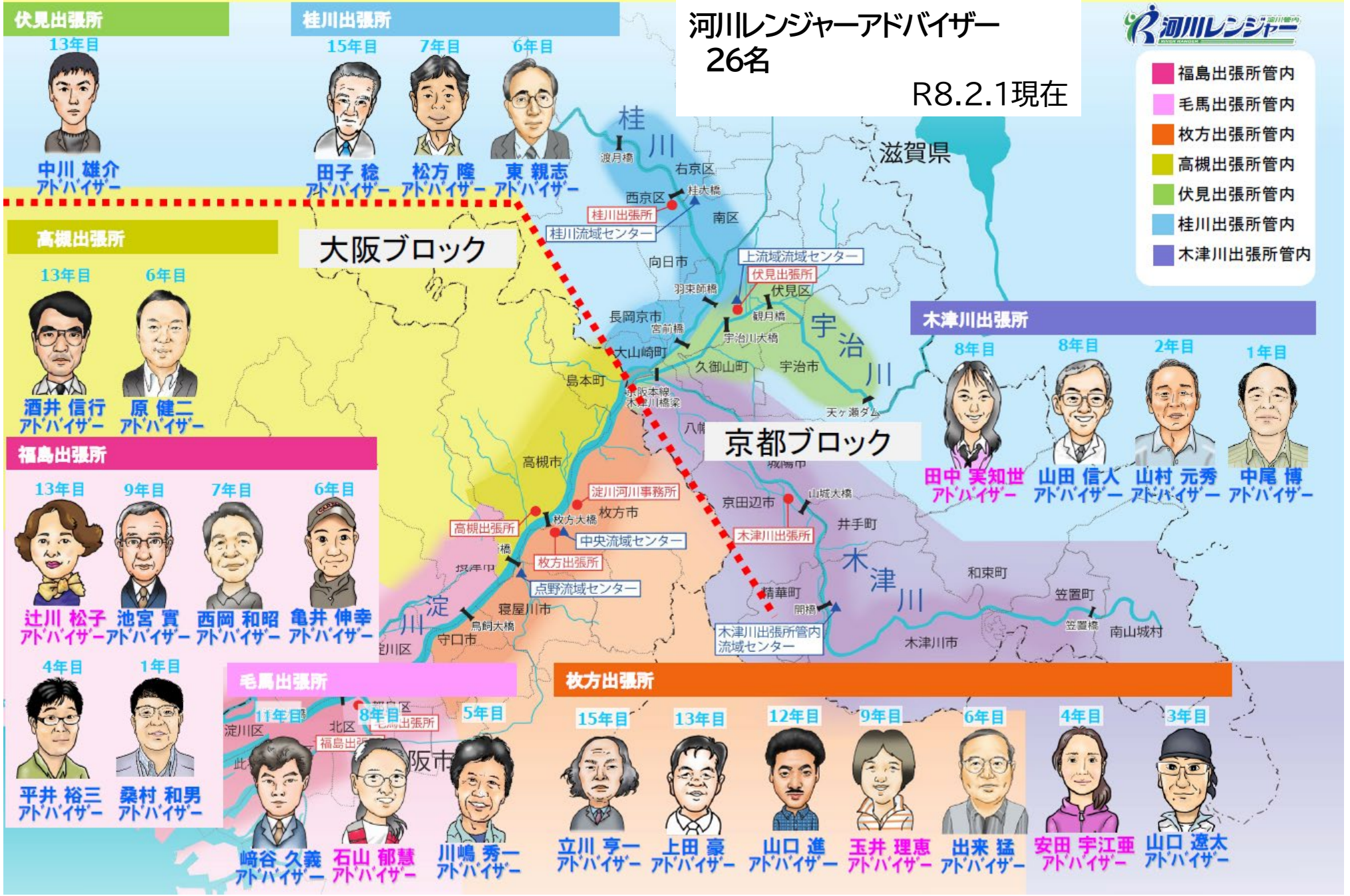
8. 淀川かわづくりパートナー　……22

1.令和7年度淀川管内河川レンジャー



淀川・宇治川・木津川・桂川の流域で活動する河川レンジャーアドバイザー（令和7年度）

河川レンジャーアドバイザー
26名
R8.2.1現在



2. 河川レンジャー活動状況

2.1 河川レンジャー活動状況（概況）

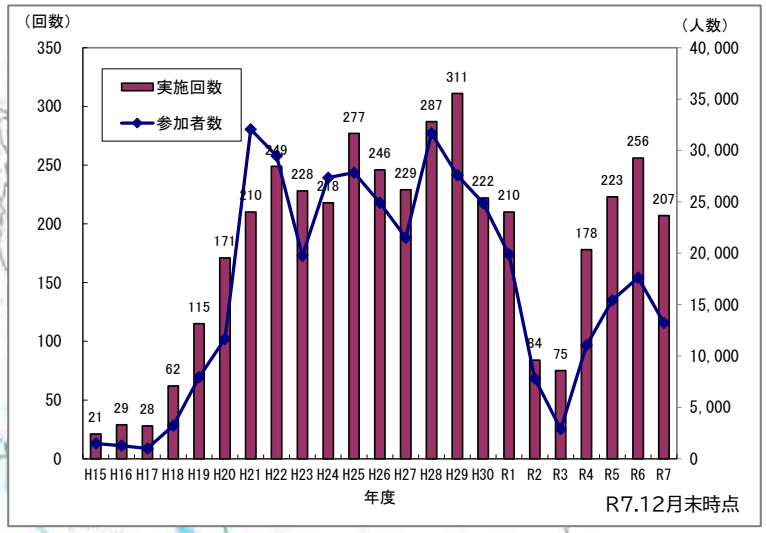
河川レンジャーは、地域情報を収集し、自分自身の活動スキルと地域のニーズに合った活動を主催している。

令和7年度（R7.12月末時点）は、活動回数約200回、参加者約13,200名であり、昨年を上回る活動状況となることが予想される。



環境保全

バッタのオリンピック
R1～





防災

羽束師地区防災活動　H28～



環境保全

河道内竹林伐採
H27～



川・人づくり

高槻ジュニア河川レンジャー　H24～



環境保全

川づくりプロジェクト
in 鳥飼 R1～



環境保全

淀川大堰魚道観察　R1～



防災

わがまち防災スクール
H18～



環境保全

庭窪ワンド環境保全　H21～



川・人づくり

点野ワンド水辺づくり　H21～



河川美化

多自然池なごめる水辺づくり　R5～



河川利用

水辺の安全利用



川・人づくり

京都伏見ジュニア河川レンジャー H15～

夏季活動については、レンジャー会議を通じた熱中症に関する注意喚起、実施計画における熱中症対策の確認、経口補水液及び塩タブレットの配付等を実施。



川・人づくり

木津川展　H24～



川・人づくり

木津川川ガキ団
H25～

＊代表的な活動事例を掲載

学校連携の取り組み深化

●活動の中で学校側のニーズをくみ取り、複数の活動を実施することで、河川教育の活動を深めた。
●地域ニーズの少ない下流部では大阪市総合教育センターの情報共有ネットワーク「OEN」を活用し、活動の間口を広げた。

学校のニーズを引き出し総合的な活動へ

依頼に応えるだけでなく、目的を引き出しレンジャーからの提案を行うことで、より深い学びを通して児童・生徒へ河川への理解と関心を深められるよう総合的な活動へと拡大した。

目的	活動の展開・拡大		
防災学習	 川の学習	 マイ・タイムライン作成	 浸水地歩行体験
河川学習	 川の生物の話	 生きもの観察会	 木津川川遊び
地域学習	 川の歴史と水害	 防災街歩き	 地域防災マップ作り

「OEN(オーエン)」の活用

大阪市内(淀川下流域)での学校教育の機会を広げるため、Osaka city Education Network(OEN)に登録。
結果、小学校からの依頼を受け、防災学習の活動を実施した。







OENでの活動事例紹介

2.2 流域治水への取り組み



河川レンジャーでは、淀川水系流域治水プロジェクトをふまえ、「被害の軽減、早期復旧、復興のための対策」から、マイ・タイムラインの作成に着目し、活動を進めています。

流域治水関連法の付帯決議（R3．4）においては、「流域治水の推進にあたっては環境分野の取り組みが重要」とされ、環境保全への取り組みにも着目しています。

「あらゆる関係者が協働して「流域治水」を計画的に推進することが重要」として、流域治水協議会構成員として河川レンジャーを拡充。（R5．3）

河川レンジャーではマイ・タイムライン及び防災学習普及計画案をもとに、流域治水への取り組みを展開。

構成員の拡充について

近畿地方整備局

○淀川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進することが重要。
○地域の防災リーダーなどが協議会（分会）に参画いただき地域の安全確保の実現に向けたワークショップや意見交換会の開催等、流域治水への住民参画の取組を引き続き拡大していくため、構成員を拡充。

○今回の流域治水協議会にて、河川レンジャーを構成員に拡充。

●協議会での役割：日頃から河川レンジャーとして活動されている中で、防災・減災に関連した活動内容に関する情報提供、行政に期待する課題・提案を行っていただくとともに、地域住民への情報発信など幅広い取組を実施。



マイ・タイムライン等に関するワークショップ

※淀川管内河川レンジャーとは
淀川河川レンジャーは、行政と住民との橋渡し役となって、防災学習や水防活動等の防災を推進する活動、河川に係わる環境学習等の文化活動や動植物の保全等の活動を実施するとともに、不法投棄の状況把握や河川利用者への安全指導など、河川管理者が責任を果たさなければならないもの以外で、比較的穏便で危険を伴わない範囲における河川管理上の役割を担い、河川と地域との良好な関係を構築する。（淀川管内河川レンジャー（試行）運営要領）

今後も引き続き、協議会構成員の拡充を図る。

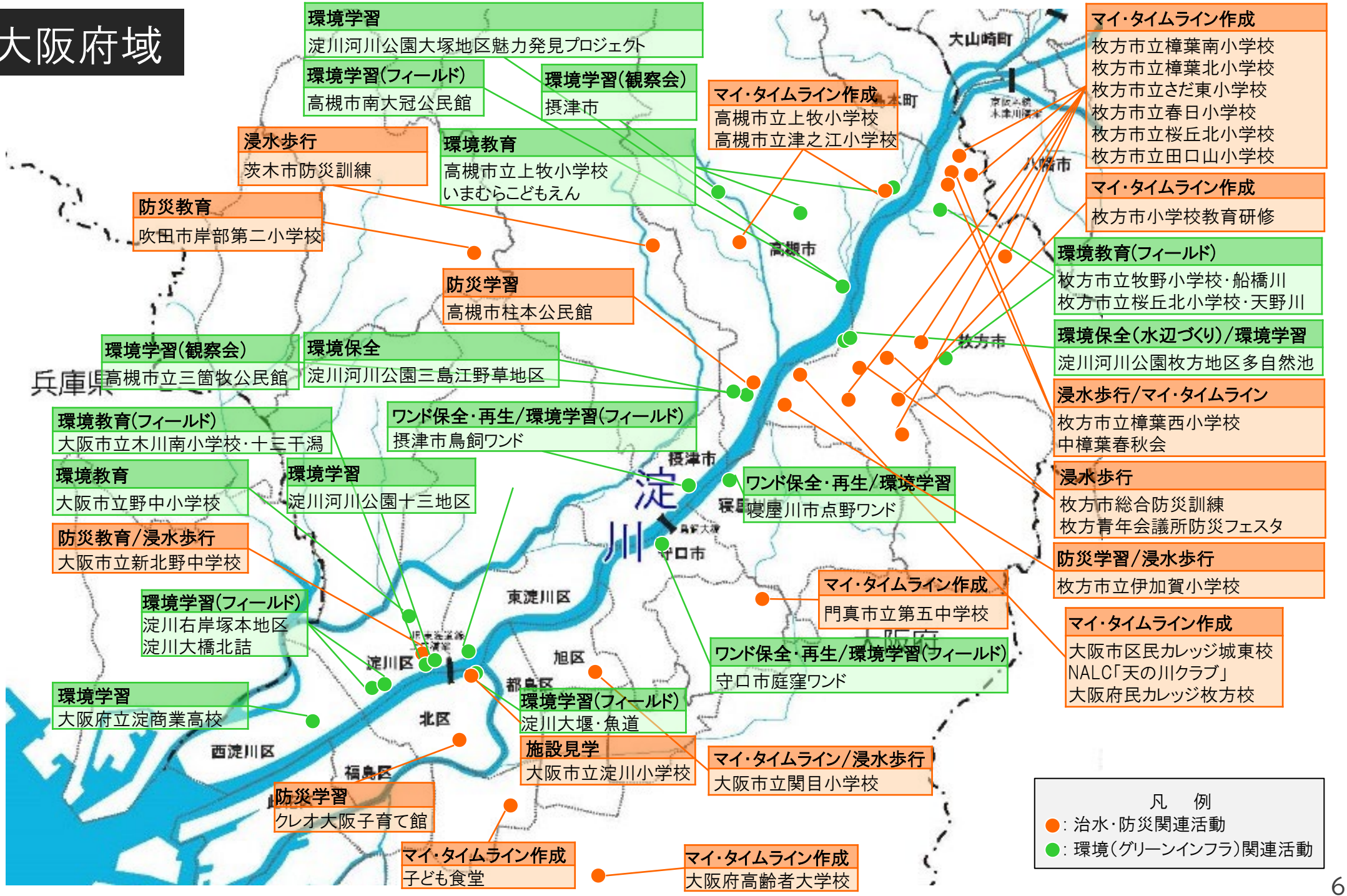
1

流域治水協議会
流域に関わるあらゆる関係者（国・府県・市町村・企業・個人等）による取り組みを適切に組合せ、加速化させることで効率的・効果的な治水安全度の向上を実現させるとともに、その考えや施策を、「流域治水プロジェクト」としてその全体像を社会全体にわかりやすく示し、地域が共通の理解を持ち議論を継続することを目的に設置（R2．8）

R7年度流域治水プロジェクト関連活動実績図 〔R7.12とりまとめ〕

河川レンジャー

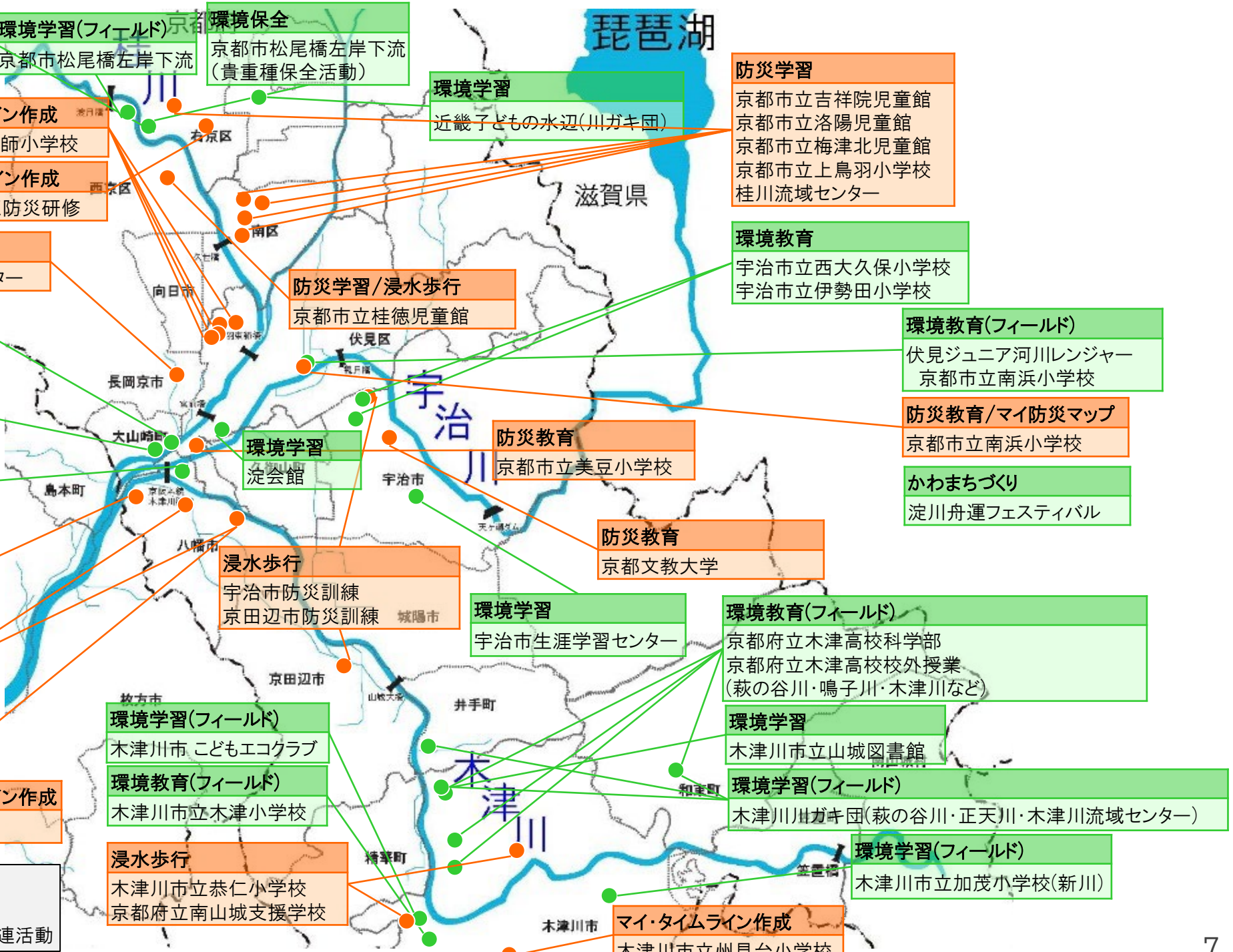
大阪府域



R7年度流域治水プロジェクト関連活動実績図 〔R7.12とりまとめ〕

河川レンジャー

京都府域



環境学習(フィールド)
京都市松尾橋左岸下流

環境保全
京都市松尾橋左岸下流
(貴重種保全活動)

マイ・タイムライン作成
京都市立羽束師小学校

マイ・タイムライン作成
京都市右京区防災研修

環境学習
近畿子どもの水辺(川ガキ団)

防災学習
京都市立吉祥院児童館
京都市立洛陽児童館
京都市立梅津北児童館
京都市立上鳥羽小学校
桂川流域センター

防災学習
長岡京市中央生涯学習センター

環境保全
大山崎町大山崎地区
(竹林伐採)

ワンド保全・再生
大山崎町桂川ワンド

防災学習/浸水歩行
京都市立桂徳児童館

環境教育
宇治市立西大久保小学校
宇治市立伊勢田小学校

環境教育(フィールド)
伏見ジュニア河川レンジャー
京都市立南浜小学校

防災教育/マイ防災マップ
京都市立南浜小学校

環境学習
淀会館

防災教育
京都市立美豆小学校

環境学習(フィールド)
八幡市さくらであい館

かわまちづくり
淀川舟運フェスティバル

防災教育
京都文教大学

マイ・タイムライン作成
八幡市立橋本小学校

浸水歩行
宇治市防災訓練
京田辺市防災訓練

マイ・タイムライン作成
八幡市防災講座

環境学習
宇治市生涯学習センター

環境教育(フィールド)
京都府立木津高校科学部
京都府立木津高校校外授業
(萩の谷川・鳴子川・木津川など)

施設見学
八幡排水機場

環境学習(フィールド)
木津川市 こどもエコクラブ

環境学習
木津川市立山城図書館

施設見学/マイ・タイムライン作成
八幡市立有都小学校

環境教育(フィールド)
木津川市立木津小学校

環境学習(フィールド)
木津川川ガキ団(萩の谷川・正天川・木津川流域センター)

浸水歩行
木津川市立恭仁小学校
京都府立南山城支援学校

環境学習(フィールド)
木津川市立加茂小学校(新川)

マイ・タイムライン作成
木津川市立州見台小学校

凡　例
●：治水・防災関連活動
●：環境(グリーンインフラ)関連活動

河川レンジャー活動事例　①防災

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

地域住民等の主体的かつ適切な避難行動の実現に向けた活動を実施。
流域治水を推進する観点から、地域と連携した避難訓練への参加・協力、マイ・タイムラインやマイ防災マップの作成支援、防災に関する知識習得を目的とした出前講座・防災学習会などの活動に取り組んでいる。

①マイ・タイムライン学習

枚方市教員より依頼を受け、河川レンジャーが研修内容を企画した。
事務所職員が淀川の歴史と現況を伝えた後、レンジャーから学校授業で行う流れを実演し、学校教育の中で水防災を行う手法を伝えた。
研修後、防災授業の依頼があり、3校5件の活動実施に至った。

枚方市教員研修（枚方市）

学校授業の枠（45分間）で行う「マイ・タイムライン」の授業をデモで実施した。



淀川河川事務所職員による解説



授業形式のデモンストレーション



複数の小学校からの依頼、実施

②早期避難の啓発

浸水地歩行体験キットを用いて住民の早期避難啓発を行っている。
各自治体の防災イベント等に出展をすることで、他の自治体や地域防災組織などへと活動を広げているほか、キットの設計図を共有することで他地域へも普及させている。

茨木市の事例

自治体の防災イベントに出展。
参加した地区防災会や他市の職員への啓発から新たな依頼へと展開。







他地域での活動へと展開

浸水地歩行体験　回数の増加

年度	実施回数
R4	4回
R5	10回
R6	11回
R7	21回（予定含む）

年間の活動回数や参加者数も増加。





琵琶湖河川レンジャー、大阪市東淀川消防署にも波及している。

河川レンジャー活動事例　②環境（グリーンインフラ）

①自然環境の保全・復元などの自然再生

ワンド等の保全・再生に関する活動

桂川ワンドでの調査・防除活動

地域団体等と連携し、外来種の防除や貴重植物の保全活動を定期的に実施。



外来種の防除活動



ワンドの状況確認

鳥飼ワンド大作戦

学生団体や地域団体等と連携し外来種防除やワンド維持管理に取り組みながら、市民対象のブース出展やワンドへの見学ツアーなどを通して鳥飼地区の環境や整備計画を周知。舟運事業等とも絡めて鳥飼地区の賑わいを創出している。



外来種の防除活動



ワンドのいきもの観察

点野みんなの水辺づくり

大学や地域団体と連携した外来種駆除や清掃活動等のワンド保全を行い、市民による水辺づくりを実施。



ワンド周辺の清掃活動

庭窪ワンド保全活動

平成28年から市民団体・大学や企業と連携して外来種除去や清掃活動等のワンド保全活動を実施。



大学や企業、市民団体等との連携

②魅力ある水辺空間・賑わいの創出

枚方地区での賑わい創出活動

枚方公園多自然池エリア なごめる水辺づくり

「かわまちづくり」（令和5年8月登録：枚方市）との連携が計画されている枚方地区多自然池において、定例の清掃活動のほか、生物観察会や防除活動を実施。



外来植物の除去活動



多自然池での生物観察会

③自然環境が有する多様な機能活用の取り組み

環境学習等のソフト施策に関する活動

木津川における環境教育

木津川の持つ多様な環境を活用し様々な体験を提供した。



木津川川遊び



図書館での生体展示



夜の昆虫観察会

3.河川レンジャーの役割理解の取り組み

3.1 背景・課題

近年、河川レンジャーになってはじめて活動をする方が増えており、その多くは活動スキルを学びながら、活動内容を充実させることに取り組んでいます。河川の課題を自分事としてとらえ、課題解決の手法として意識的にレンジャー活動に取り組むレンジャーが少ないのが現状です。

このような背景から、河川管理に関する意見聴取やニーズの抽出に貢献した活動は少なくなり、河川事業とのかかわりが薄れる傾向にあります。

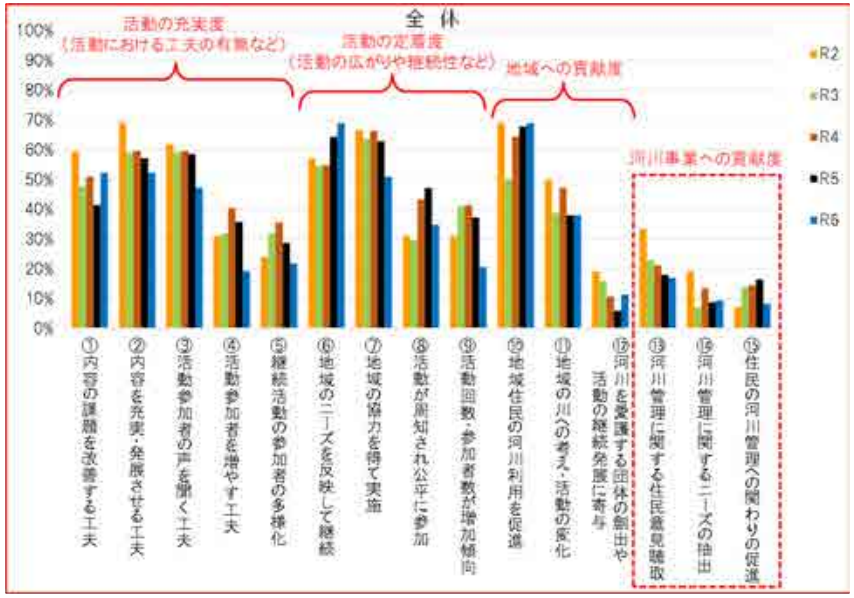


図10 活動の充実度・定着度、地域・河川事業への貢献度に関する自己評価の経年変化

R6年度河川レンジャー活動の点検結果とりまとめ

3.2 解決の方向性

河川整備・管理に関わる活動を増やし、河川事業への貢献度を高めるため、河川レンジャーの本来の役割を理解し、課題に取り組む意識をもって活動できるよう、年間を通じて取り組みを展開しました。また、活動に直結した学びとなるよう、体験や交流を重視しました。

解決の方向性

- (1)川の課題をふまえた活動計画の立案
- (2)川づくり活動を体験
- (3)淀川河川事務所職員との意見交換強化

(1)川の課題をふまえた活動計画の立案

現地研修、動画配信、面談等を組み合わせて年間を通じた取り組みを実施。
取り組みを通じて、河川の課題を活動基本計画(年間活動計画から名称変更)に位置づけることを必須とした。

令和7年度第1回河川レンジャー研修(5月15日)
マイ・タイムライン活動から河川レンジャーの役割を考える
実習①マイ・タイムライン最新版を体験、不明点をフィードバック
実習②グループワークのまとめ役として困った質問に対応

鵜殿現地研修 / 鳥飼かわづくり研修 / 淀川発見講座運営 / 意見交換会

令和7年度第2回河川レンジャー研修(7月17日)
河川レンジャーの役割と活動の方向性を考える
事例学習①原RAの活動から課題設定と連携の広げ方を学ぶ
宿題①年間活動計画案の作成

次年度活動計画素案(宿題)提出

試行Rの面談実施

令和7年度第3回河川レンジャー研修(9月18日)
河川整備計画の自分事化①
⇒整備計画と河川レンジャー活動との関係を考える
座学①河川整備計画の概要(講師:酒井RA)
実習②グループワーク(RAに聞いてみよう!)

第2回研修(原RA)、第3回研修(酒井RA)の動画配信

令和7年度第4回河川レンジャー研修(11月20日)
河川整備計画の自分事化②
⇒整備計画を自分の河川レンジャー活動へ落とし込む

出張所単位での現地確認(川の課題を学ぶ研修)

希望者への面談実施

活動を活用した研修①鳥飼かわづくりプロジェクト

鳥飼ワンドでは「鳥飼かわづくりプロジェクト」の一環として、河川レンジャーが年間を通じて保全活動とモニタリング調査を実施し、調査報告書を作成した。本活動は研修として位置づけ、試行期間の河川レンジャーも参加し、指導員の助言を受けながら、河川レンジャーの役割理解と川づくり・保全技術の習得を図った。また、ワンドに侵入した外来水草の除去手法を学ぶ研修を行い、多くの河川レンジャーが保全活動に取り組める体制づくりを進めた。

①7年度の活動

■ ワンドの保全・モニタリング調査

ワンドの劣化防止に向け、モニタリング調査・定点撮影と維持管理を実施した。専門家の指導のもと、9～12月に外来水草の除去と周辺のオオブタクサの刈り取りを行った。





■ 鳥飼地区での賑わい創出活動(春・秋・冬)

令和5年度に開始したかわづくりプロジェクトは、ワンドの保全・利活用、淀川舟運の活性化、自治体と連携した「川づくり」の推進をめざし、年2回の観察会等を実施した。今年度は、新たに鳥飼ワンドと船着場周辺のクリーン作戦を実施予定である。



自然観察会

②指導員制度の活用

5月に指導員を募集し、活動実績と地域性を踏まえて酒井RAを主指導員に任命した。上田RAも昨年度に続き、可能な範囲で現役レンジャーを支援した。指導員は計画立案、準備、関係機関との調整、維持管理作業等の進め方について助言を行い、河川事務所との調整も支援した。これらにより、年間を通じた維持管理・調査や自治体・学校との連携活動が促進された。



現地下見・打合せ



学生と活動を企画

③河川レンジャー研修

■川づくりプロジェクトを活用したOJT研修

活動実施までの一連の流れを学ぶ研修として位置づけ活動を行った。これにより、レンジャーの役割理解を深め、活動目的に沿った計画づくりや活動ノウハウを身につける機会となった。



活動計画立案に向けて打合せ

■外来水草の除去手法を学ぶ研修

淀川の環境保全に関する研修(座学)を行い、9月には現地研修を実施した。



作業の体験

活動を活用した研修②水辺の安全利用（出前講座）のOJT

●「水辺の安全利用に取り組みたいが活動経験のない河川レンジャー」に対し、アドバイザーによるOJTを実施。
●準備から実施に至るまでの流れを伝え、自身の活動として実施できるように短期間で育成した。

①アドバイザーの活動を通して学ぶ

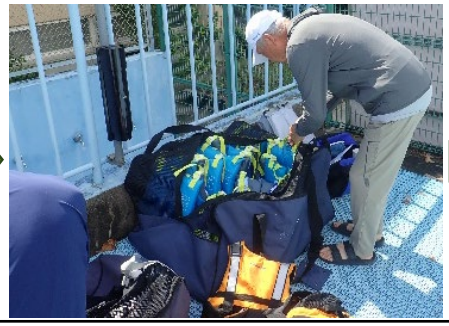
日程	場所	主担当	指導対象	参加人数
7/8	寝屋川立 三井小学校	山口RA	岡村R・白川R・波戸R	5・6年生 84名
7/9	守口市立 藤田小学校	山口RA	岡村R・小林R・波戸R	6年生 71名

※全体スケジュール・留意点などは事前にアドバイザーが伝え、当日の流れをシミュレーションしたうえで実施。
学校との打ち合わせから準備～実施に至るまでの流れを、アドバイザーの活動の中で学んだ。

打ち合わせ



準備



アドバイザーの実演



②各レンジャーが自身で活動しながら学ぶ

日程	場所	主担当	参加人数
7/10	寝屋川市立　三井小学校	白川R	3・4年生　89名
7/11	交野市立　私市小学校	岡村R	5年生　82名
7/14	枚方市立　五常小学校	小林R	6年生　77名
7/15	高槻市立　柱本小学校	小林R	5・6年生　54名
7/16	枚方市立　山田東小学校	白川R	5・6年生　68名
7/16	吹田市立　岸部第二小学校	波戸R	雨天により　中止
10/2	守口市立　寺方南小学校	白川R	6年生　82名





①の学びを活かし、レンジャー自身で活動を実施。
アドバイザーは円滑に進められるようバックアップにあたった。



雨天プログラムを活用した
屋内講座も実施した。

OJTに参加したレンジャーの声
・打ち合わせ方法や準備段階の流れなど、実際に見ないとわからない部分が確認できた。
・アドバイザーの活動を見れてとても勉強になった。ノウハウを教えてもらえるのはとてもありがたい。
・アドバイザーが相談にのってくれ、当日の活動にも補助としてついてくれたので心強かった。
・物品準備や雨天時プログラムなど、わからないことを先輩に気軽に訊けるのはとても助かりました。

③活動後、各レンジャー間で気づきを共有し、次へ活かす

共有の中で出た意見
・身近な物での救助方法として、子どもが持っていそうなもの（菓子袋やペットボトルなど）を事例として紹介した。
・屋内講座で川の性質や急な増水などの説明すると、「水辺の安全」活動としてさらに深まると感じた。
・関係ができた学校に対して、次は川の観察会や清掃活動などへ発展できるよう提案してみる。



川の課題を学ぶ研修（河川管理者との意見交換・現地視察）

川の課題理解促進や令和8年度の活動基本計画づくりに向け、出張所単位で意見交換会と現地視察研修を実施した。視察場所は要望を踏まえて選定し、関係者が現地を歩いて課題解決に向けた活動内容を検討した。

河川管理者との意見交換会（5～6月）
川の課題（取り組み中の課題、新たな課題）、活動計画の内容等を共有

→

現地視察（11～12月）
川に課題がある場所を現地で把握・改善に向けた活動を検討

令和7年度　川の現地視察研修　概要

エリア	実施場所	日　時	内容
①福島	淀川右岸　福～西島	11月20日	下流域の河川整備・河川管理に関する理解を深めることを目的として、福エリア、西島水門、伝法陸閘等を視察した。
②毛馬	毛馬排水機場、淀川ゲートウェイ	12月1日	治水対策について理解を深めることを目的とし、河川関連施設（毛馬排水機場、淀川ゲートウェイ等）を視察した。
③枚方	淀川河川公園枚方地区（多自然池　他）	11月17日	治水・利水・環境に関する理解を深めることを目的として、周辺の河川関連施設の見学、多自然池の現状・課題を確認した。
④高槻	淀川右岸　唐崎ワンド	12月12日	ワンドの再整備・保全に関する理解を深めることを目的として、唐崎ワンドを視察した。
⑤伏見	宇治川の支流（山科川と堂の川合流地点）	12月8日	治水対策について理解を深めることを目的とし、大島排水樋門築造工事の現場及び大島排水機場を視察した。
⑥桂川	桂川右岸（3号井堰、上野橋周辺）	12月9日	桂川の治水・環境保全に関する理解を深めることを目的として、河川関連施設、河川敷を視察した。
⑦木津川	木津川出張所	12月5日	川の課題を共有し、解決に向けた活動計画作成を支援することを目的として、川の課題マップ作成・意見交換を行った。

④


①


⑤


②


⑥


③


⑦


水上研修の実施

舟運活性化等の取り組みをふまえ、河川レンジャーも水上からの視点を通して見た河川の魅力と課題を知り、活動に繋ぐことを目的とした研修を実施した。

淀川河川事務所が日々管理のために河川巡視している巡視船「かわかぜ号」に乗船し、巡視のコースをめぐりながら、淀川の特徴や河川管理施設の状況、淀川と地域のつながりなどを学習した。

	内容等
日　時	10月16日(木) 午前:8:30～11:45　午後:12:45～15:30
場　所	毛馬出張所　↔　枚方船着場
参加者数	レンジャー8名、事務所職員4名



事務所職員による解説



毛馬閘門などの河川施設を確認･体験

生態系保全研修会in宇治川への参加

現地の環境や生物相の解説ののち、「小さな自然再生」を行うための手法や候補地の選定方法を学び、たまりを掘り下げて生物の生息環境を改善する実習や、宇治川本川にバーブ工を施す実習を行った。

後日、設置したバーブ工の効果を現地検証する座学研修が行われ、河川管理者、レンジャーそれぞれの立場からの川づくりについてワークショップ形式で議論を深めた

	生態系保全　研修会
日　時	①11月4日(火)13:00～16:00 ② 1月14日(水)13:00～16:00
場　所	①宇治川右岸　宇治橋下流300m ②上記現地　・　お茶と宇治のまち交流館
参加者数	①レンジャー4名、事務所職員11名 ②レンジャー7名、事務所職員9名



宇治川現地でのバーブ工実習



効果検証のグループワーク

4.河川レンジャー活動成果の発信

4.1　河川教育学会での発表

　京都市国際交流会館にて開催された日本河川教育学会全国大会第五回京都大会において、赤畠レンジャーが事例紹介を行った。
河川教育屋台村（河川教育に関する教材・観察・実験の紹介）にて、河川レンジャーの教育に関する取組や、対象校である木津小学校の活動事例などを紹介した。
　また、分科会では中村レンジャーがマイ・タイムライン授業の活動とその成果についての発表を行った。







4.2 マスコミ等による活動紹介



新聞記事	内容
京都新聞　令和7年11月18日掲載	11月9日近畿「子どもの水辺」交流会 in京都　2025に参加した木津川川ガキ団の活動が紹介されました。
京都新聞　令和8年1月7日掲載	連載 水のまちの防災教育（八幡）において、八幡市教育委員会とタッグを組んで小学校で始めた防災教育が取り上げられ、授業を担当する中村レンジャーが紹介されました。

「やましろ防災スイッチ ＃003 大雨での水害を学ぶ」（2025年6月放送）
https://www.youtube.com/watch?v=RH3CRr2DafM

4.3 連携先による活動紹介

出前授業を実施した小学校のブログなどで活動紹介された。

枚方市立樟葉南小学校



八幡市立橋本小学校



4.4 全国流域治水MAP（カワナビ）への掲載

流域治水の取り組みを共有するプラットフォームに
河川レンジャーの取り組みを投稿。1月現在で
「防災授業の提案」等の19件が登録、共有されている。



5.淀川水系一斉美化アクションについて

背景

淀川・桂川・宇治川・木津川は、地域の歴史・風土・文化を育み、都市域の貴重な自然として生物の生息の場となるとともに市民の憩いの場として利用されています。一方で、河川内には一部の利用者によるゴミの廃棄、散乱、不法投棄が見受けられ、河川管理・水辺利用・河川景観・公衆衛生の面から大きな課題となっています。

淀川管内河川レンジャーでは、このような課題に対して、活動の中でつちかってきた行政・地域との関係を活かし、「桂川流域クリーン大作戦」「大阪市3区合同清掃活動」をはじめとする清掃活動を大きく広げ、平成28年度より淀川水系一斉美化アクションとして活動に取り組むこととなりました。

目的

河川美化
- 清掃活動により河川を美しくする

マナー向上
- ゴミを捨てない、捨てさせない、　持ち帰る

水辺環境保全
- 水辺環境の保全を考える

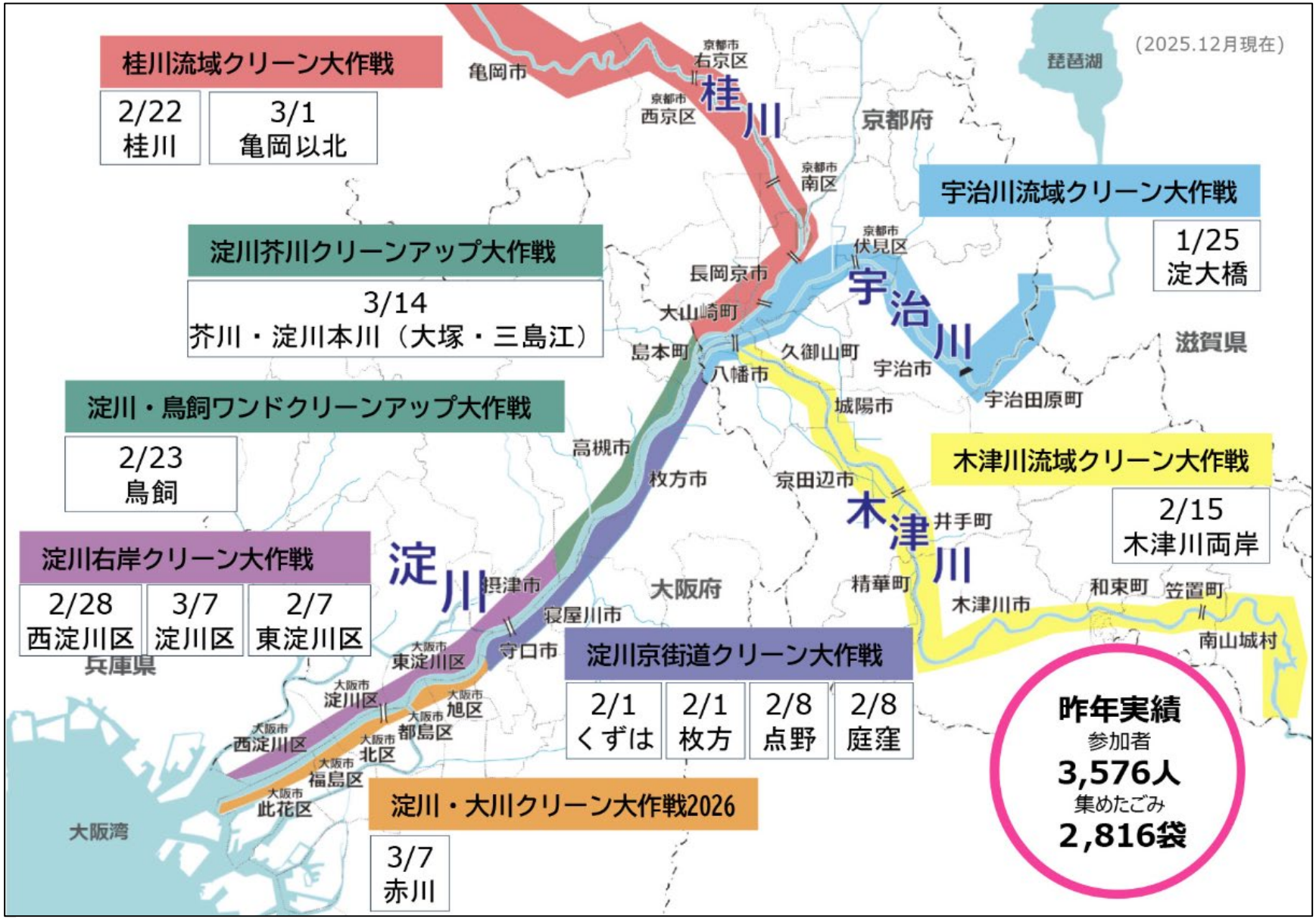
淀川水系（淀川・桂川・宇治川・木津川）の上流から下流まで河川レンジャーが住民とともに一斉に清掃することにより、河川美化、水辺環境保全に取り組みます。また、マナーアップの意識の共有を参加者に促し、ゴミを捨てない「ゴミの持ち帰り運動」へと発展させていきます。

この活動により、地域住民や来訪者が愛護する美しい淀川水系（淀川・桂川・宇治川・木津川）の定着を目指します。

将来的には、宇治川上流の琵琶湖（滋賀県）や木津川上流（三重県）を含めた淀川水系全体が連携する清掃活動を目指しています。

また、大規模な河川美化活動としては日本国内有数の試みであることから、河川レンジャーの活動や存在をより多くの方々に伝えることを期待しています。

実施にあたっては、淀川水系一斉美化アクション連絡会を設置し、各エリアの情報共有を行いながら進めています。PIRIKAアプリを活用したWEB版淀川水系一斉美化アクションも継続。



令和7年度淀川水系一斉美化アクション実施予定

※木津川流域での
ツキノワグマ対策

木津川流域クリーン大作戦実行委員会では、昨年から目撃情報が寄せられている「ツキノワグマ」への対策を取りつつ計画を進めている。

目撃情報が出た場合の中止判断基準の共有を行うほか、遭遇予防・遭遇時の対処について、対策ガイドを作成しホームページにて参加者へ情報共有をしている。



木津川流域クリーン大作戦
公式HP→

6.地域連携グループ連絡会

河川レンジャー活動の個別支援を役割とする「地域連携グループ」に登録いただいている自治体、地元見識者等を対象に、河川レンジャーの活動状況や、流域全体の課題である「流域治水（グリーンインフラ含）」の取り組み等に関する情報共有を行うため、連絡会を開催した。

	実施概要
日時	令和7年10月17日（金）
場所	中央流域センター
出席者	44名
内容	①淀川管内河川レンジャーと地域連携グループの概要説明 ②河川レンジャー活動の体験 ・浸水地歩行 ・マイ・タイムライン作成 ③河川レンジャー活動の事例紹介





参加者の声

〇マイ・タイムラインづくりに関して、短縮版でしたが、いろいろ検討出来てよかったです。他の班の発表からなるほどと思える気づきがあり、良い機会でした。

〇出前講座などを通じて、河川レンジャーの防災活動を広めたいと思いました。防災以外の活動についても詳しく知りたいと思います。

〇行政目線で無い視点の活動から学ばせていただくことが多かったです。

〇実際に体験してみることは非常に大事だと思った。

7.第3回河川レンジャー交流会

流域治水推進に向けた情報共有と交流を目的に、琵琶湖、猪名川、木津川上流、淀川河川事務所の河川レンジャーが交流する「河川レンジャー交流会」を開催した。

今回は3回目であり、これまでの交流会の成果である淀川と琵琶湖のレンジャーが協力して行った活動の報告の他、活動を充実させる情報共有・交流としてのワークショップを実施し、好評を得た。

	河川レンジャー交流会概要
日時	12月7日(日)10:00～15:00
場所	ウォーターステーション琵琶
出席者	河川レンジャー　12名 木津川上流河川レンジャー　1名 猪名川河川レンジャー　2名 琵琶湖河川レンジャー　3名 淀川管内河川レンジャー　6名 河川事務所4名、事務局10名
内容	①施設見学 ②連携活動紹介 ＜昼休憩＞ ②ワークショップ 「流域治水を考える」 ③ワークショップ 「一緒に課題を考えよう」





8.淀川かわづくりパートナー

8.1　制度概要

(1)淀川かわづくりパートナーとは

令和4年度、淀川かわづくりパートナーは、淀川河川事務所及び淀川管内河川レンジャーと協力し、河川と地域との良好な関係づくりを行うとして制度運用を開始した。パートナー登録には、淀川発見講座を受講・修了する必要がある。

(2)パートナー登録にあたって

パートナー運営要領を遵守し、誠実に活動すること、活動を宗教活動・政治活動・営利活動等、他の目的に利用しないこと、知り得た個人情報や希少種情報を悪用しないこと等を誓約のうえ登録。



パートナーによる来場者対応

(3)パートナー活動とは

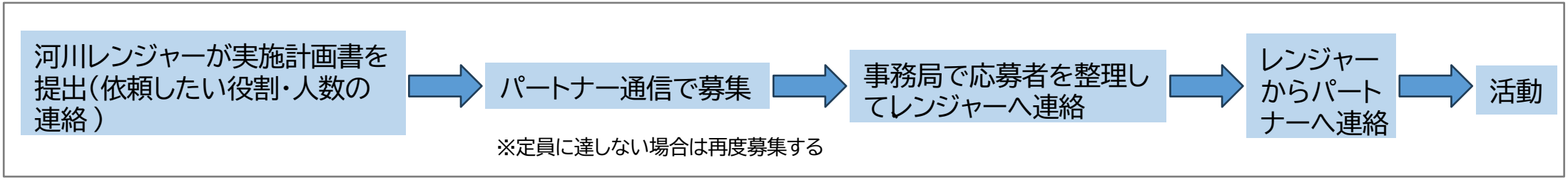
パートナーの活動は次の2つの形態に整理される。

スタッフ協力：活動の運営に関わる支援

活動への参加：外来種防除や河川清掃等の活動に参加



定例活動への参加



淀川かわづくりパートナーへの協力依頼から決定までの流れ

8.2 今年度の活動状況まとめ ※12月末時点の結果

①登録状況
- 募集期間：令和7年5月31日～6月10日
- 登録者75名（新規22名）

②研修状況
- 救急法研修・オリエンテーション：14名参加
- オンデマンド配信を6月から開始

①スタッフ募集と参加状況
- パートナー通信を11回発行
- 44件の募集に対して26件申込み（約6割）

②活動実績
- 22名（約3割）が何らかの活動に参加
- 多くは年間1～2回程度の協力
- 不参加理由の最多は「日程が合わない」

③河川レンジャーとの関係深化
- 定例活動（なごめる水辺づくり等）への参加
- 得意分野を活かした協力
- 顔見知りパートナーへの直接依頼の事例あり

パートナーの活動状況	人数
スタッフ協力	20名
活動参加者※	5名

※活動参加者は、事務局を通じて申込みがあった人数を集計
スタッフ協力した20名には、今年度レンジャーに任命された3名も含む
また、20名のうち2名は申込みのみ（荒天等による活動中止）

スタッフ募集状況	件数
募集した活動 （レンジャーが直接依頼した8件を含む）	44件
定員割れの活動	23件

※募集した44件のうち、荒天等による活動とりやめが3件

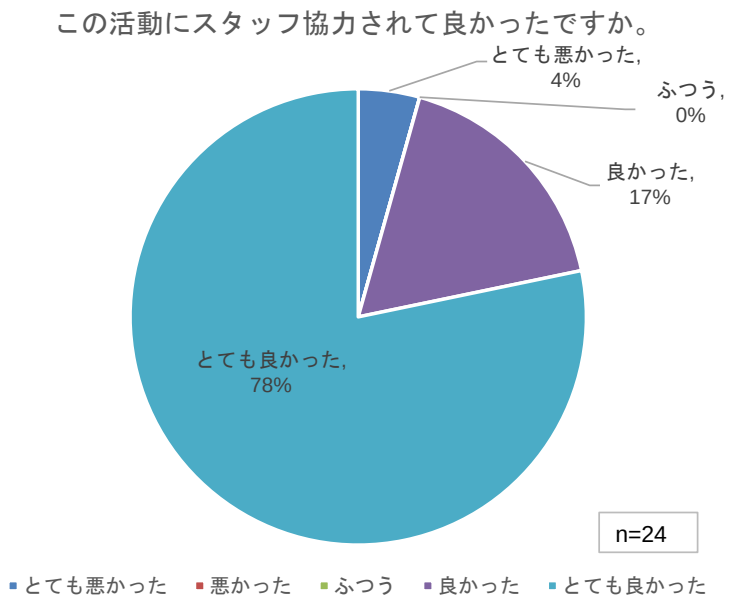
■パートナー活動の定着、リピーター化
毎回同じレンジャーの活動に協力・参加


定例の河川清掃において安全管理の補助等を担当


定例の水辺づくりにおいて環境保全活動の運営に協力

8.3　パートナーの声、まとめ

活動後（スタッフ協力）のアンケートにおいて、以下のような意見があった。



活動に参加してよかった点

- 参加者から多くの感謝の言葉をいただけた。
- 参加される方々の意識が高く、活動全体に助け合いの一体感がある。
- 授業を通して、水難事故防止に繋がる活動をしている事が嬉しい。
- 現場における河川レンジャーの具体的な行動を学ぶことができた。
- 達成感を得られた。参加者と交流できて自分も楽しかった。

活動に参加して気になった点、改善に関する提案

- 最寄駅から遠い活動には参加しにくい。駅周辺等で集合して、行くことができたら、もっと参加しやすくなるのではないか。
- レンジャーが参加者誘導などに手を取られていた。レンジャーは、全体の統括と説明に専念してはどうか。
- 活動情報を事前に共有してほしかった。
- 安全管理で気になる点があった。

- 登録されたパートナーのうち、一定数が継続して活動に協力・参加しており、協力したパートナーの約8割が「とても良かった」と回答。一方で改善に関する提案もあった。
- レンジャーの声かけによって募集が成立しているケースもあり、活動成立に向けた重要な働きかけの一つとなっている。
- パートナーの定着に向けて、河川レンジャーが適切にパートナーを活用できるよう、引き続き、制度の周知、問題点の共有と改善が必要と考えられる。